

八百屋遊び

及川ふみ

今日は朝から雨で、内あそびにはよい日
であります。

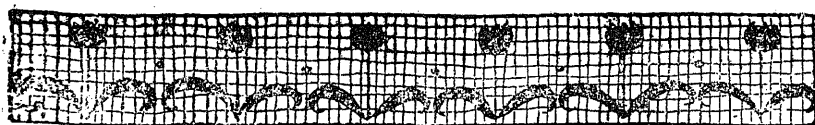
この間からみんなが一生懸命にしてこし
らへたお野菜（これは書用紙に野菜をかき
それをきりぬいたものであります）が硯箱
の蓋一杯にたまつてゐます。早速茶色の紙
で小さい丸を澤山うちぬいてお金をこしら
へました。そこで

「今日は八百屋さん遊びをしませう」

といふと、大よろこびで五六人の子供達
は物置へはしりこみました。そして自分達
の背よりも高い衝立をわいしよわいしよと

お部屋へかつぎこみました。これが彼等の
一つの愉快な遊びとなりました。四五人の
女の兒は八百屋さんになりたいので、衝立
の中にはいりました。そして野菜の箱から
いろいろよりわけて奇麗に賣臺の上になら
べました。見ると

いちご、なつみかん、ばな、りんご、
めろん、すゐくわ、だいこん、にんじん
はす、かぶ、たけのこ、きうり、なす、
さやえんどう、そらまめ、とまとう等
みどりやあかや、黄色の色どりの奇麗で
ありますし、又一つ一つの形もなか／＼上



手であります。下手な大人のかいたのよりもよつほど味のあるものばかりであります。尙ほならびきらないお野菜は箱の中に澤山のこつてゐて商品はなかく豊富にあります。

銀行屋さんになる男の幼児たちも又せつせと別の衝立を物置からかついできて、八百屋さんの反對の側へ店を出しました。そして茶色のお金をもつて衝立の中にはいりました。

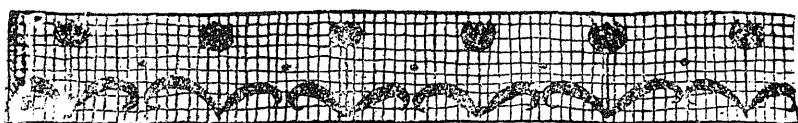
買手の人たちは先づ銀行へいつてお金をひき出しました。尤も一度に二十錢づゝの引き出しときめました。それは他の組の人たちにも大勢にうりたためであります。

二十錢もつた人は八百屋店へいつて澤山の野菜にまよつたすゑ漸く十錢でいちご二つに、又十錢で大根一本買ひました。

次の人は二十錢だけばなを買ひましたそれから私にはそらまめ、私にはきうり、私にはにんじんと、つぎからつぎとつめかけてくるお客様で、お店は満員の盛況であります。衝立がおされて倒れそうなのでしつかりおさへねばならぬといふ有様であります。いちごなどはなかくおいしうなので、八百屋さんはいく度も箱から出してゐるといふ有様であります。

お隣の組へもそのつぎの組へも開店の披露をしたので小さい組の人たちがはづかしそうに、そしてもの珍らし顔して先生につれられ、銀行でお金を出してお店へ來ます。あかいにんじんや、そらまめを買つてかへる。

入れかはりたちかはりする大勢のお客様がすつかりお野菜は賣切れとなりました。



それで。

銀行屋さんも八百屋さんも大繁昌だったので大満足でやすんでゐます。お客さんたちも澤山のお買物をお部屋の方で整理して紙につゝんでポケットに入れました。

「先生またこんどね」。「わたしはこんど八百屋さんにしてね」僕はこんどは銀行屋さんにね」。「わたしはこんどはかかせて下さいね」と、つぎ／＼にこの次ぎの役わりを先生に承諾をうけて安心してあとかたづけをいたしました。

こんな風で大さわぎの八百屋さん遊びは丁度三十分で済みました。

こんなに前からいろ／＼の野菜をこしらへておいてうるのも面白いけれども、自然にたくさん恵まれてゐる地方などでは／＼の雑草をつみ集めてきてきうりにし、

おねぎにして、椽臺の上にならべて、小石のお金で買ふのも又どんなに面白い事でありませう。

さてお店に使つた衝立は口繪の寫真で太體わかりませうが全部木製であります。高さは五尺、長さは六尺のものの二枚を蝶つがひで二枚折にしてあります。これは賣屋遊びだけでなく、おまゝごと遊びにも使へる様に店でない方の半分に三尺の幅の出入口をつけてあります。

また銀行屋の方の衝立は正面は高さ五尺幅六尺で、左右の兩横は二尺位蝶つがひで横に折れるやうにしてあります。これも郵便局遊びにも又小さい人形芝居の舞臺としてもつかはれるのであります。